

がん看護ジェネラリスト育成研修

10月4～5日に、今年度のがん看護ジェネラリスト育成研修プログラムの「プログレスⅠ-1 がんとともに生きる人々への看護」が実施されました。

がん看護大学院を修了された尾崎靖子看護師(看護職キャリアプラン担当)による講義の後、4～5名ずつのグループで事例検討を行いました。

全てが貴重な内容でしたが、特に尾崎看護師が研修者へ問いかけたことが3点ありましたのでご紹介します。

“スピリチュアリティ”とは

一言では言い表しにくいですが、自己の存在と意味、生きがいや信念に与える影響などと表現されます。これらのことから、がん患者のスピリチュアルペインとしては「時間存在の喪失(未来＝希望の喪失)」「関係存在の喪失(自分という存在が消えてしまう恐怖)」「自律存在の喪失＝セルフケアができなくなった自分の無価値感」などがあるとされています。

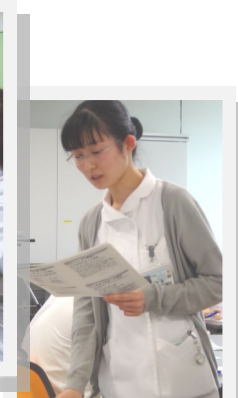


“全人的苦痛(トータルペイン)”とは

がん患者の苦痛は単独に生じているのではなく、身体的、精神的、社会的、スピリチュアル全てが関連し合っています。例えば、痛みが役割遂行を障害し、それによる焦りや不安が生じ、自分の存在価値が揺るがされるなど。

“意味を探求させる”ケアとは

例えば、「自分は生きている価値がない」と話す患者は、どうしてそう考えるのか?という意味を探ることにより援助の焦点を明確にできます。患者自身がわかっていることであっても、改めて言葉にすることで感情表出になります。



尾崎看護師からのコメント



2人に1人の人ががんで亡くなる時代となりました。がん診療連携拠点病院の看護師の1人として、がん看護実践について考える機会を持てることは良いチャンスではないかと思えます。また、同期の看護師と一緒に看護について語り合う場としても時間を大切に使いたいと思えます。

<編集後記>

自分や家族だっいつがんに侵されるかわからない。もしもの時、どんな看護師に身を委ねたいですか?研修での学びを活かし、よりよい看護につなげていって下さいね。

看護部教育担当 内線：3607 PHS：8455

